

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長氏名	夜船 正充	生徒指導主事氏名	石田 達生
<b>取組事例名 『平成 27 年度 修学旅行』</b>					
<b>取組のねらい『集団行動と異文化交流』</b>					
平成 27 年度 10 月 14 日より 10 月 17 日までの 4 日間、本校 2 年次生は台湾への修学旅行を実施した。この特別活動を通して、学校外における集団行動と異文化交流に取り組み、社会的マナー及びモラルの定着、並びに自己肯定感・他者尊重の態度の養成を図った。					
<b>取組の具体的内容『姉妹校との学校交流、班別自主研修』</b>					
修学旅行では、2 日目に本校と姉妹校提携を結んでいる新北市立石碇高級中学との学校交流を、3 日目に現地の大学生によるボランティアガイドとともに台北市内をめぐる班別自主研修を設定した。 学校交流では 4 つのグループ（スポーツ交流、現代文化交流、伝統文化交流、伝統遊び交流）に分かれ、それぞれが準備してきた歌・ダンス等を披露・鑑賞したり、けん玉・中国ゴマの技を教えあった。 班別自主研修では、ガイドの力を借りながら事前学習で計画したルートをめぐり、初めて見る文化や歴史に触れる充実した体験活動を行った。					
<b>取組の課題・創意工夫『丁寧な事前学習』</b>					
本取組における工夫の一つは、事前学習に力を注いだことである。多くの生徒がこれまで訪れた経験がない台湾について、出発直前の授業まで丁寧に調べ学習に取り組んだ。インターネットや図書を活用して台湾の文化・歴史・風土について学び、実際に台湾を訪れた時にどのような自主研修を行うかを計画した。また、空港（国際線）の利用や台湾の公共交通機関利用時のルール、集団行動時に一般の方と同席した際のマナーやモラルについても丁寧に指導した。さらに学校交流での出し物についてグループ毎に計画・練習し、お互いに協力して一つの目的を達成しようとする意識を養った。					
<b>取組の成果（効果）『自己肯定感・自律』</b>					
学校交流は 4 つのグループいずれもが事前学習のかいあって非常に充実したものとなった。 文化交流のグループでは J - POP に合わせてダンスを披露し、台湾の生徒たちから大変な好評を得た。日本で普段生活する中では気付けない日本文化の価値について気付くとともに自分たちが他者に認められるという感覚は、自己肯定感を育む大きなきっかけとなった。 班別自主研修では自分の生活圏とは異なる空間において、社会的マナーやモラルを守ることで他者に迷惑をかけることなく、共存していくことの重要性に気付くようになった。学校という比較的狭い空間から社会生活、特に台湾という国際的な都市の中で行動することは生徒にとって重要な機会となった。					
<b>今後の展開『丁寧な振り返り』</b>					
今後は 1 月末に行われる総合学科学習成果発表会に向けて、修学旅行で学んだことを整理し、まとめる学習活動を進めていく。現地での自他の活動や発見を丁寧に振り返ることでさらなる成長へとつなげていく。また、今年度は 12 月に石碇高級中学からの訪問があり、その歓迎準備や歓迎式典で「おもてなし」の心を学ぶ機会も得ることができた。					
<b>他校へのアドバイス『緊張感のある出会いと経験』</b>					
普段の生活では出会うことができない人・モノに触れることが本校の生徒たちの成長に大きな影響を与えた。新しい出会いや経験がよい緊張感を生み、他者への配慮や行動の自己管理といった社会的資質を高めることができた。日常の活動の中でも同じような取組ができれば良いのではないだろうか。					



学校交流の様子 (左上：あやとりを教える松高生と石碇高級中の生徒)  
 (右上：友好の証としてメッセージを書いたけん玉)  
 (左下：両校の生徒が混合でチームを作り、対戦したバレーボールの試合)  
 (右下：学校交流を通して育んだ絆・友情を記念写真に)



班別自主研修の様子 (左：台北市内を事前学習で計画したルートでめぐる自主研修)  
 (右：自主研修をサポートしてくれる台湾の学生ボランティアガイドの方に自己紹介)